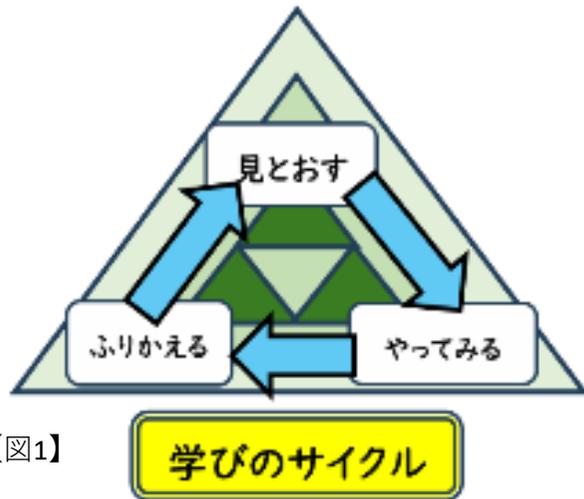


学びのサイクル



予見→遂行→省察という「自己調整の循環モデル」(Usher&Schunk, 2018)を改変し、小学校の児童にも分かりやすくしたものである。「学びのサイクル」は、様々な大きさ(一つの動作、一時間、単元、年間など)で回っていると捉える。

本校の「自己調整力」の捉え方

「学びのサイクル」【図1】を自ら回す力のことである。「自己調整力」が高まると、「自律した学習者」となる。自ら興味をもって学習に取り組み始め、課題を見付け、解決方法を考えて主体的に学習を進め、学習を的確に振り返り、次なる課題を設定することができる力である。

「自己調整力」の必要性

「変化が激しい不確実な社会の中で、学びを通じて自分の人生を舵取りし、社会の中で多様な他者とともに生きる力を育む」ために、「学びの主体的な調整」は不可欠である。(教育課程企画特別部会 論点整理より)本校の経営方針にある「夢の土台づくり」とも強く関連する。

「自己調整力」を身に付けるために

- ①授業内で「学びのサイクル」の回し方を体験し、習得する。
- ②自己選択学習の時間での探究的な学習において、授業を中心に習得した「学びのサイクル」を自ら回し、活用する。
- ③1週間の計画表である「マイプラン」の活用等も含め、様々な場面を通して身に付けていく。